

# わくわく園庭日記

蒲幼稚園 No.10 R 2, 12, 4

あっという間に秋が深まり、木々の紅葉が始まりました。今年は例年に比べて、葉の色付きがいいようです。園庭のイチョウも輝くような黄色に変化しました。そして先週、子どもたちは地面に敷き詰められたイチョウの葉で楽しく遊びました。今ならではの美しさを子どもたちと共に味わえたことに幸せを感じました。

息を合わせて…



それぞれの手いっぱい集めたイチョウの葉っぱ



澄み切った秋の空にイチョウの葉が舞いました。

これぞ、秋の楽しみ！

## イチョウの葉を集めるその方法

用途に合わせて  
道具を選ぶ



葉っぱをたくさん集めるために熊手のような道具を持ち出した月組の子どもたち。手で掻き集めるよりも道具を利用した方が効率的であることを思いついたようです。

身近なものを  
利用して



掻き集めた葉っぱを一度にたくさん運ぶにはこれがいい！子どもたちが思いついたのは、自分が被っていた帽子でした。

大きな子が  
遊びのモデル



もちろん月組がやっていることは花組にも伝わり、同じように帽子に葉っぱを集め始めました。

これも  
応用する力

ブルドーザー  
みたい！



もっとたくさんの葉っぱを集めるにはと思いついたのは、子どもが四人座れる長い椅子でした！子どもでも持ち上げられる軽い素材で出来ているものですが、まさかこんなものまで便利な道具になってしまおうとは思いませんでした。

## 特別な遊具がなくても…

近頃、子どもたちの遊びに変化を感じるようになりました。特別な遊具がなくても自由な発想で楽しく遊び始めます。私たちは、そんな子どもの姿を目標に園庭研修に取り組んでいるのです。それを改めて感じたのは、園外保育に出かけた時のことです。芝生の坂道をコロコロと転がってみたり、登れそうな木を見定めて木登りを試みたり、自分の背丈以上の草むらの中でかくれんぼや鬼ごっこを試してみたり、その場の環境を生かした遊びを思いついてやってみる、その様子に興味を持って自分もやってみる、いつしか友だちと一緒に遊び出す。子どもたちの生き生きとした姿を微笑ましく思いました。遊んでいる子どもたちの様子を見て一人一人がよく考えて取り組んでいることが分かります。「こんなことができそう」「こんなこともできるかな？」「どうしたらできるかな？」「今度はこうしてみよう」などなど、考えている内容は、大人が予想する以上にたくさんのこと。そうして遊んでいるうちに、学びに向かう力や人と関わる力が育っていくのだと感じました。限られた空間ではありますが、子どもたちが毎日過ごす園庭こそ、子どもが持つ本来の力を存分に出しきれる環境に変えていきたい。生き生きと遊ぶ子どもたちの姿を見て、そんな思いが益々強くなりました。